

平成 27 年度 第 2 回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 平成 28 年 3 月 24 日(木) 午後 1 時～午後 2 時

場 所： LIC はびきの 教育研究所 会議室

出席者：(委員) 岸下委員、菅谷委員、脇谷委員、南野委員、竹内委員、笹井委員、小澤委員、

荒川委員、上野委員、瀬戸口委員

(教育委員会) 高崎教育長、石井生涯学習室長

(事務局) 岩城課長、奥野館長、安東補佐、岩佐主幹

欠席者： なし

傍聴者： 1 名

●開会

事務局より 笹井委員新任の紹介、竹内委員退任の紹介

教育長挨拶

(教育長 公務のため退席)

●議事

事務局より、議事録の要録を WEB と中央図書館で公開することを報告

会長挨拶

議題 平成 28 年度事業計画について

事務局：(事業計画案、コンピュータシステム更新の経過を配布資料に基づき説明)

(7 月 1 日から太子町とも広域相互利用を実施するよう進めていること、コミセン施設の指定管理者が 4 月から変わるが施設内にある図書館の業務委託先は変わらないことを報告)

会長：何か質問などないか。

委員：システムが変わってどのような利便性が向上する点があるか？ スマホ対応はどうか？

事務局：現在の OS が老朽化しているので、更新することにより安全性・利便性が高まり、処理速度も速くなる。スマホでもこれまでどおり所蔵検索や予約ができる。

委員：子どもが家で本を読むことが少ないが、羽曳野はボランティアもよく活動しており、児童サービスは充実していると認識している。大人の利用者にとって図書館が身近で役に立つ存在であることが、子どもの読書習慣の形成にも役立つ。大人へのサービスが課題ではないか。

事務局：H27 年度に次の大人対象の事業を実施した。まず、OsakaBookOneProject 主催で、羽曳野市出身の作家である朝井まかて氏講演会&サイン会を開催し大変盛況であった。この他、大人のおはなし会、手づくり教室などを実施した。高齢の利用者を見込んで大活字本をこれまでより多く購入し、CD ブックも新たに購入した。H28 年度も買い足していく。

委員：大活字本は高齢者には（分冊が増えるから）重いので敬遠されるが、利用はどうか。

事務局：大活字本のみの利用状況は数値的には持ち合わせていないが、カウンターでの感覚ではよく借りていただいている。

委員：子育て世代や会社で働いておられる方にも来てもらえるような考えは？

事務局：中央ではイベントをいろいろ試しているが、子どもを想定していたものにも大人が参加してくれている。これからもやっていきたい。

委員：児童サービスは貸出でも府下でがんばっているのは承知している。図書館が成熟していくためにも、中高生、子育て世代、働く世代も使える図書館に発展していくよう力を入れてほしい。

委員：小学校で本の取り組みが活発になったので報告したい。司書と担任とが連携し、ビブリオバトルが熱心に行われている。6年生では学年で2回、学級では4回実施しており、発表力や表現力が増していると感じる。本に対して興味がわき、よく読むようになった、とてもいい取り組みだ、と保護者からも好評を得ている。今年は全学年で取り組んでいきたい。

事務局：市立図書館としては学校図書館への支援センターの役割も重要と認識して事業を進めている。司書研修として、例えば、府立図書館の出前講座等にも学校司書に出席してもらい、お互いにスキルを高めながら交流を図っている。

委員：ビブリオバトルのことを子どもたちは本当に楽しそうに話をしてくれる。学校で本をよく読む子ほど家族で市立図書館に行っているようだ。学齢期の子の保護者が図書館を身近に感じられるかが差になっているのでは。市立図書館に行ったらおもしろいことがある、とか、市民参加のビブリオバトルとかできればいい。

事務局：ビブリオバトルを行っている公共図書館が府下にもあることは承知している。羽曳野市では、「図書館を使った調べる学習コンクール」に参加しており、市立図書館としても学校現場と連携し普及に力を入れている。なお、このコンクールに参加している団体は府下で3団体となっている。

委員：文庫連絡会主催の講演会の講師を予定している方が富田林でも講演をされた。子どもの育ちと脳科学・食育のお話だった。大切なことは昔は地域で伝えられていたが今はそういう環境にない、図書館がそういうネットワークの中心になってほしい、子どもの育ちは親の声かけが形づくる、など。日常がいかにか大事かというお話だった。

事務局：講演会では共催という形をとらせていただき、長年お世話になっている。参加者の方々や特にボランティア団体の方が熱心に聴かれており、H28年度も開催したい。

委員：朗読ボランティアでは30名ほどで活動している。先日発表会を開催し60人くらいの方が来てくれた。視覚障がい者サービスの利用者が高齢化している。高齢の方や入院中の方など、利用者の広がりがあればと思っている。

事務局：必要な方はもっといると思う。そこに届けていくのも我々の役目と思っている。情報交換しながら、いっしょにやっていきたい。

委員：話を聞いていて、学校での取り組みが学力向上につながっているのだとわかった。指定管理のことだが、(4月からいくつかの施設の指定管理者が)羽曳野市の関係団体から民間団体になるので心配であったが、図書館はこれまでどおりだと聞いて安心した。議会で、陵南の森(総合センター)や図書館を指定管理にできないのかとの一般質問があった。自治体で取り組むものと指定管理で任せるもの(との区別)は守っていかなければならない。

事務局：一般質問に対しては、市長、理事者より、現在、今後の経営努力やサービス向上の他、公的責任の認識について答弁があった。現課である図書館運営を行う立場としても、民間のデメリットの論調ではなく、図書館の果たすべき役割を果たし、サービス向上等、機能を前面に出して対応したいと考えている。

委員：学校図書館が20年、それ以上に文庫連とも、A職員に支えてきてもらい、本当にお世話になっている。あとを継ぐ人をぜひ人事課に要望してほしい。

石井室長：議会では、図書館の指定管理は考えていないと答弁した。コミセンの施設部分は指定管理だが、図書館はみのりの里での委託で継続する。図書館は指定管理に適さない、メリットはないと説明した。

市長も指定管理は考えていない。

職員問題について、若い正規職員を要望しているが、かなえられていないのが実情。非正規職員でも今以上にレファレンスができるよう育てていきたい。

委員：個々の業務・事柄でなく、図書館を運営・経営できる人がA職員なので、それを考えてほしい。府下では正規職員が定年退職し、それで指定管理にせざるを得なくなるケースが実際にある。現在の職員のスキルを引継ぐ人が必要だ。

事務局：これからも若い正規職員を要望していく。

事務局：図書館としての対応は、組織としてはできるようにしている。

複数委員：それは理解している。

委員：園での活動を話させていただく。ボランティアさんのおはなし会を園児はとても楽しみにしている。絵本を好きな子が増えた。園に来ていただいてのおはなし会は本当にありがたい。

事務局：今お話いただいたボランティアさんの他にも、各団体さんがそれぞれの場で活動していただいております。ありがたく思っている。今後も連携を図っていきたい。

委員：絵本の良さを保護者に知らせたい、と自由参加でおはなし会の保護者参観をしたが、残念ながら来園がなかった。来年こそ保護者に来てもらえるようがんばりたい。

委員：時々図書館をのぞかせてもらっている。大人をあまり見ないのでさびしい。他市の学校図書館を見る機会があった。学校司書の重要性がよくわかった。

委員：（中学校もふくめて）全校配置をお願いしたい。

委員：手づくり教室は司書が先生か。

委員：図書館のショーケースの作品も司書さんが作っており、頑張っている。

事務局：そうです。（手づくり教室の先生役は司書です。）

委員：いろいろな特技をもつ人が多くいる。一般の人が講師をし、それに関連した本を並べる、などの企画はどうか。特技をもつ人をその都度募ってもいいのでは。以前、市役所の他の部署のイベントで図書館の宣伝をしてもらってありがたかった。著名な方に来てもらうのは予算的に厳しいが図書館と市民と市を巻き込んで来ていただいたら、若い人も参加してくれるのでは。

事務局：予算的な制約はあるが、できることはイベント等どんどんチャレンジしていきたい。いろいろな情報交換をお願いしたい。

会長：先ほどのA職員のほか、今在籍している職員が図書館に入ってきた頃のことを知っている。若かったが、成長されたと思う。その時と同じように、若い職員が来てくれることをお願いしたい。

委員：（コンピュータ）システムが変わるが、（サービスなどは）今までどおりか。

事務局：インターネット予約のパスワードはそれぞれで変更をお願いすることになる。休館期間を2週間と考えているが、これもふくめて利用者への迷惑が少なくなるようにしたい。

委員：この時期なので、H28年度の資料費はどうか聞きたい。

事務局：明日が議会だが、今年度並で確保の予定。

石井室長：朗読ボランティアの方には毎月声の広報を製作いただき、この場でお礼申し上げる。

（府下の指定管理導入状況を説明）南河内では大阪狭山市のみ。貸出では南河内では河内長野市が一番多いが児童書の貸出では羽曳野市の方が多い。資料費として府の子育て支援交付金を使わせていただいている。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。ご意見を糧に、いい図書館運営に取り組んでいきたい。委員各位にはこれからも図書館へのご協力をお願いします。